

# 令和元年度 栄光幼稚園・自己評価学校関係者評価

## 1.教育方針

『あそび』を主体とした幼稚園生活からたくましく『生きる力』を育てる。  
～幼児期にふさわしい生活の中で、あかるくのびやかに活動し、健康な体と豊かな心を育てる～

- ・つよいこ すこやかな体と、どんな困難も乗り越える強い意志を持てる子
- ・あかるいこ 誰とでも仲良く笑顔でのびのびと行動できる子
- ・やさしいこ 心が広くおもいやりのある子
- ・かしこいこ 良く見て良く考え善悪の判断力をしっかり持てる子
- ・たくましいこ なにごとにも勇気を持って挑戦する子

## 2.今年度の主な課題と取り組み

建替えにより、限られた環境の中でも良質な保育を行えるよう、特にあそびを充実、発展するにはどのように工夫すると良いのかという部分に重点を置いて取り組む。

- ・研修会の参加や他園の見学を積極的に行い、自身の保育を振り返り、視野を広げる。
- ・年間計画を見直し、計画の在り方と子どもの気持ちや興味関心に寄り添う保育のバランスを考える。
- ・室内、室外では環境を見直し、あそび込める環境設定を考え合う。  
又、園外では豊かな経験が出来るよう公園や自然の中での過ごし方を考え合う。

## 3.各項目の自己評価及び達成状況

評価項目	自己評価	取組・達成状況
I.保育の計画性	B	あそびが充実してきた分、子どものあそび方や興味に合わせ柔軟に対応してきた。また、指導計画のたて方を見直し、職員間での話し合いも積極的に行った。
II.保育の在り方・幼児への対応	A	子どもの声を聞き、寄り添いながらも全体を把握できるよう心がけている職員が増えた。
III.保育者としての能力や良識・適正	A	探求心、実行力は高く評価できる。 職員同士の共通理解を積極的にし、保育の楽しさ、喜びを感じられるような体制を整えてきた。
IV.保護者への対応	A	保護者に合わせて、公平かつ多種多様で臨機応変な対応を心がけている。
V.地域の自然や地域との関わり	B	まだ不十分ではあるが、認定こども園として地域との関わりをどのようにすべきか模索している。また、2019年度はほぼ毎日公園へ出かけ、四季折々、自然と存分に触れ合うことができた。

VI.研究と研修	B	園内研修や職員会議を通し、園としての共通理解（保育で大切にしたいことや活動の在り方等）を充実させてきた。特に発表会やお店屋さんごっこでは、子どもたちが試行錯誤しながら創り上げることに重点をおき、完成するまでの日々の活動（課程）を大切にしながら進めてきた。その結果、子どもたちの主体性も大きく育まれたように思う。
----------	---	---

#### 4.学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は建築中で園庭は無かったが、いつもは広い園庭が確保され、子どもたちの遊ぶ空間が確保されていてたいへん好ましい。</li> <li>・週1回、または臨機応変に園外に出かけることはたいへん素晴らしい。多くの未知のものに触れること、経験すること、違う環境を知ることは成長を促す。これからも続けていってほしい。</li> <li>・園児同士の関わりで、もっと異年齢の活動を増やすと良いのではないか。年齢の違う者同士が日常的に関わることで、他の人への関心を高め、お互いに補いあい、思いやり合うようになると思う。</li> <li>・常に職員間で園全体を共有するようにしていることはたいへん望ましい。一人ひとりの子どもに親身になって取り組む姿はとても好感が持てる。</li> <li>・手立ての必要な子どもについても担任一人に任せるのではなく、みんなが関わっている体制づくりが出来ている。子どものより良い成長には不可欠のことなので続けていってほしい。</li> <li>・今後は認定こども園になり年齢層も広がるので、職員間でしっかりと共通理解をしながら取り組んでいってほしい。</li> </ul>
--

#### 5.今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>・新園舎となり、危険な場所等のヒヤリハットもしっかりと確認していきたい。</li> <li>・今までの栄光幼稚園としての教育理念を持ちながら、認定こども園として時代のニーズに応えながら対応し、より充実した園生活やあそびを考えていきたい。</li> <li>・職員も増えるので一人ひとりの動きも見ながらしっかりとした体制を整えていきたい。</li> </ul>
--

#### 6.財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められる。
------------------------------